2024 年 8 月 21 日
bp
中部電力株式会社

bp と中部電力が国際的 CCS ハブ&クラスターの構築に関する協力協定を締結

bp の子会社である BP Berau Ltd.（タングーLNG※1 のオペレーターであり権益保有者の代表、以下「BP ベラウ」）および中部電力株式会社（以下「中部電力」）は、名古屋港からインドネシア・西パプア州のタングーまでの CCS バリューチェーンの構築に向けた協力関係を拡大するため、本日、国際的 CCS ハブ&クラスター※2 の構築に関する協力協定（以下「本協定」）を締結しました。

本協定は、タングーの CO2 貯留地の活用に関する実現可能性調査が 2024 年 3 月に完了したことを受け、2023 年 9 月に BP ベラウと中部電力が締結した協定を更新するものです。

両社は、本協定に基づき、商業的な CCS プロジェクトの実現のため、陸上インフラ設備や輸送設備をはじめとするバリューチェーン全体のコスト最適化や法制度の課題整理、ビジネスモデルの検討等に取り組んでまいります。

なお、本協定は、本日インドネシア・ジャカルタで開催されたアジア・ゼロエミッション共同体※3（以下「AZEC」）の第 2 回閣僚会合の覚書式典において、AZEC パートナー国との協力案件として紹介されました。

bp および中部電力グループは、2050 年までに事業全体における CO2 排出量をネット・ゼロにすることを目指しています。

両社は、bp の大規模 CCS プロジェクトの開発経験と、中部電力の中部エリアにおけるエネルギー事業者としての知見を組み合わせ、日本およびアジア地域における脱炭素ソリューションの促進に向けて検討を進めてまいります。

※1：インドネシア最大のガス生産プロジェクトであり、同国の天然ガス生産量の約 3 分の 1 を占める。bp がタングーLNG において運営するタングーCCUS プロジェクトは、2021 年に同国政府より承認を受けた開発計画に基づき基本設計が行われ、プロジェクトの認可に向け進められている。貯留可能量は約 18 億 t-CO2 である。

※2：複数の CO2 排出源からハブとなる拠点に CO2 を集めたうえで、CO2 を貯留地へ輸送・圧入するバリューチェーンの形態。

※3：アジア各国が脱炭素化を進めるという理念を共有し、エネルギートランジションを進めるために協力することを目的に、2023 年 3 月にパートナー国とともに立ち上げられた協力枠組み。

＜参考：タングーLNG プロジェクトの概要＞

所在地	インドネシア共和国　西パプア州　ビントゥニ湾	
生産開始	2009 年	
生産能力	年産 1140 万トン（380 万トン×3 系列）	
データ	タングーはインドネシアで最も生産量の多いガス田であり、同国内のガス生産量の約 3 分の 1 を占める。	
権益保有者	BP ベラウ（オペレーター）	40.22%
	MI Berau B.V. （三菱商事株式会社、株式会社 INPEX）	16.30%
	CNOOC Muturi Ltd. （中国海洋石油総公司）	13.90%
	Nippon Oil Exploration (Berau) , Ltd. （JX 石油開発株式会社、JOGMEC）	12.23%
	KG Berau Petroleum Ltd. （JOGMEC、三井物産株式会社、JX 石油開発株式会社、 三菱商事株式会社、株式会社 INPEX）	8.56%
	Indonesia Natural Gas Resources Muturi Inc. （エルエヌジージャパン株式会社）	7.35%
	KG Wiriagar Petroleum Ltd.（三井物産株式会社）	1.44%